

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれ、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」
(ヨハネの黙示録3・20)



私たちの心のなかの 声に 耳を傾ける

今月のみ言葉は「思いがけない客」を迎え入れるよう私たちを招いています。

イエスは毎日ちがった「服装」で現れます。

日々の苦しみ、掲げた理想に相応しく生きようとしてぶつかる困難、人生の大事な選択を前に出会う挑戦。何よりも、日々出会う兄弟姉妹のうちに。

イエスの声、聖霊の声を聞き分けるには、心のなかの雑音を消すことが必要。このイエスの声だけが、私たちの不安をとき、自分の殻から出て心のとびらを開くようにしてくれる。

豊かに なっていく愛

「心の中の聖霊の声を聞き取るには、他の音をすべて消す必要があります。

泥の中からダイヤモンドを取り出すように、この声を引き出す必要があります。きれいに洗って飾り、ふさわしいときに贈り物にします。この声は神の愛であり、愛は与えるためのもの。

火も、わらなどに移れば燃え上がっても、燃え移るものがなければ消えてしまう。

私たちの中の愛も、大きく成長させて、外に溢れ出ていくべきなのです」(1)

キアラ・ルービック

福音が教える相互愛を実践するなら、イエスのように、イエスとともに、神様の存在を証しすることができる。今生きている社会の中にあっても、神様が生きておられることを。

私たちの 体験:

大勢の移民がおしよせるとある国境の町でのこと。とびらを叩く音を聴いた人がいます。デリアの話聞いてみましょう。

「暑い日の午後、私のカフェの前にたくさんの母親と子どもたちが座り込み、子どもたちはお腹を空かせて泣いていました。子どもたちはただにするから、店に入るように言いました。



母親たちはお金がないので、ちゅうちょしていましたが、私は何度も声をかけ、やっと入ってくれました。

ここからすべてが始まり、私の店は今では移民カフェになりました。彼らの多くはイスラム教徒です。みんな、私を『アフリカのお母さん』と呼んでいます。

常連の足はだんだん遠のきました。

こうして、お年寄りの娯楽室だったところは子供たちのお絵かきや遊び場になりました。

おもつ交換台も設置して、母親たちが少しでもくつろげるようにしました。イタリア語のレッスンもしています。

こうした活動は、私が選んだものではありません。目をそむけることができなかっただけのことで。彼らのおかげで、たくさんの人たちや団体と出会い、その人たちからのサポートに支えられ続けています。

また同じことが起きたら、私はためらわずに同じことをするでしょう。私にとって大切なのは与えることだからです！」

デリア (イタリア)